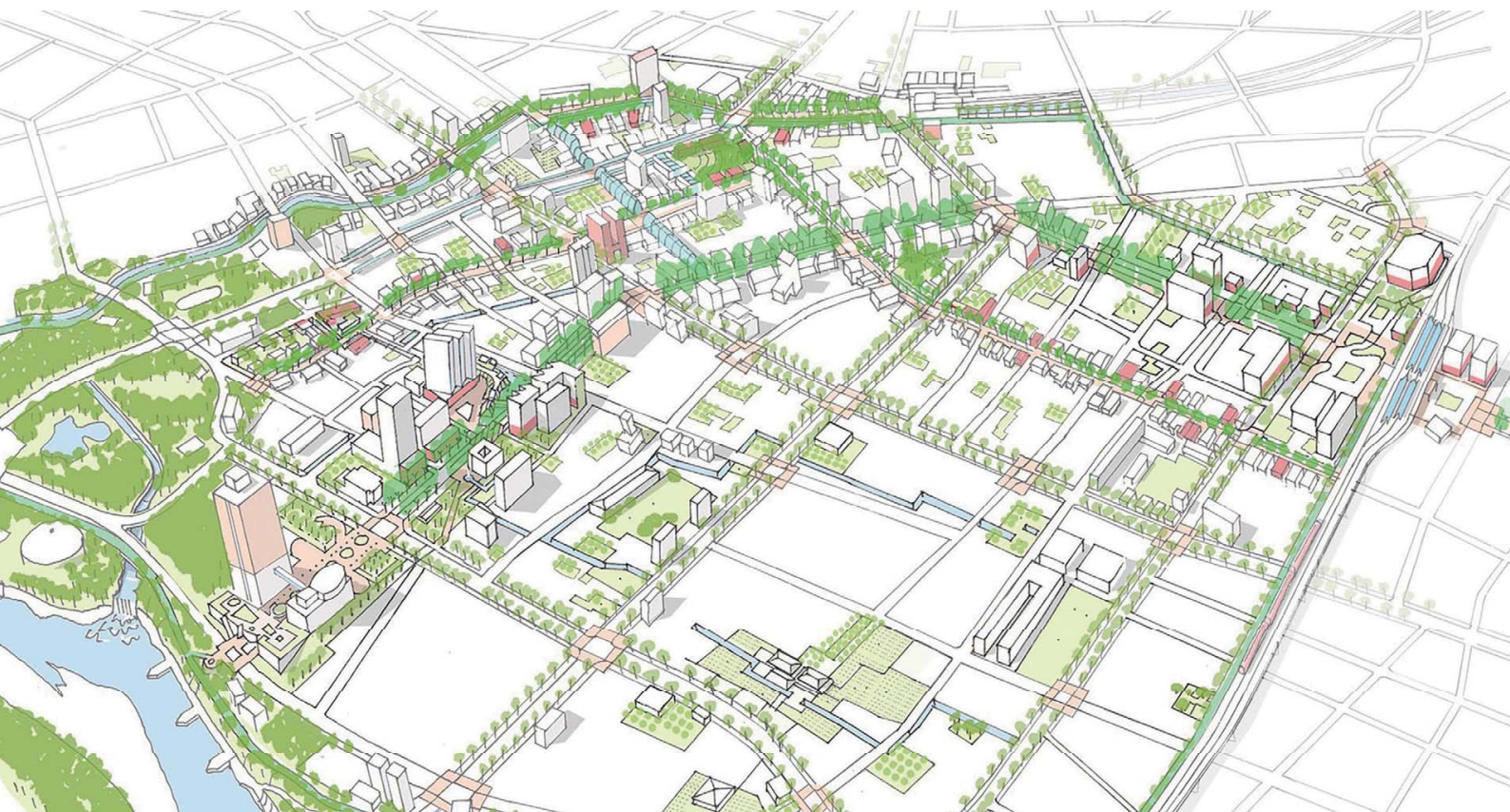




# おまち

Vol.  
117

2020. 1. 1 (隔月1回1日発行) 編集発行：群馬県県土整備部都市計画課まちづくり室(企画推進係)



前橋市アーバンデザイン ビジョンイメージ図



## 市民と共有するまちづくり

- 前橋市アーバンデザインの策定から始める民間主体のまちづくり
- 屋外広告物タウンミーティングを開催しました！

【連載】観光まちづくり最前線 地域を歩くレポート No.21

日本を変えた渋沢栄一翁から学ぶ“地域づくり”への姿勢と意識  
～危機への意識・地域への愛着と、群馬に照らされた新たな連携の道筋…

【投稿】先進都市現地調査 ～日立市におけるBRTを活かしたまちづくり～

マーチィ'sROOM ●マーチィに訊け まちづくりライブラリーからおすすめの一冊  
●マーチィ VOICE ファシリテーター紹介  
●マーチィの掲示板 国土交通大学校へ行ってきました！

【まちづくりイベント情報】県内で行われるイベントの紹介  
●まち's クリの独り言





# 前橋市アーバンデザインの策定から始める民間主体のまちづくり

前橋市 都市計画部 市街地整備課

## ■ 策定の背景

人口減少社会の到来とともに、地方公共団体の財政がひっ迫している状況下において、行政主体のまちづくりには限界が見え始めています。一方で、まちのユーザーである住民や企業等の民間が主体となった官民連携まちづくりでまちに賑わいを取り戻し、これまで使われてこなかった施設が多くの人に利用されるなど、豊かな公共空間を生み出す事例が複数紹介されるようになってきました。

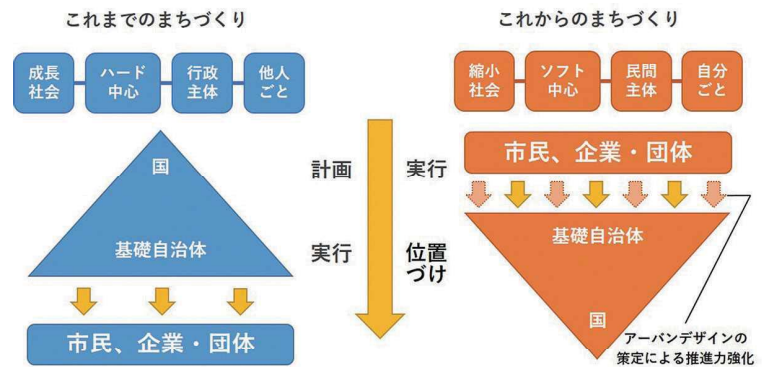
本市の中心市街地においても、民間を主体とする官民連携の様々な取り組みが始まり、まちづくりの主体が行政から民間へ移行する転換期を迎えています。



歩道空間を活用したイベントの開催

## ■ 策定の趣旨とねらい

これまでのまちづくりでは、行政が主体となり計画に基づきハード整備などを進めてきましたが、これからのまちづくりでは、まちの主役である民間の主体性を重視するために、「まちでどのようなことをしたいのか」といった声を反映した、まちづくりの理念を官民で共有する必要があります。そこで、様々なステークホルダー(利害関係者)の中立の立場である行政が主体となり官民協働で策定したものが、前橋市アーバンデザインです。前橋市アーバンデザインでは、長期的視点に立ったまちづくりビジョンを共有することを念頭に置き、取り組みの具体事例として示した公共空間の利活用などを中心としたプロジェクトなどを参考に、民間が主体的に関わる実際のアクションにつながるきっかけとなるよう策定しました。



これまでのまちづくりとこれからのまちづくり

これまでのまちづくりとこれからのまちづくり

### 前橋市アーバンデザインによる民間主体のまちづくり

アーバンデザイン  
民間主体のまちづくりを推進するための指針



## ■ まちづくりの方向性と長期プラン

前橋市アーバンデザインは、まちのキーパーソンとなっている方々に参加を頂きワークショップを幾度も重ね、前橋の現状と未来を議論して官民協働で策定しました。こうして掲げられたまちづくりの方向性は3つあります。





1つ目は、都市の便利さと自然と暮らす居心地の良さを兼ね備えたまちづくりを示す“エコ・ディストリクト”です。前橋市の程良い都市規模や環境の良い部分を活かし、賑わいや便利さといったまちの経済的な側面(エコノミー)だけでなく、居心地や快適さ、健康感といったまちの環境的な側面(エコロジー)を両立させようとするものです。街の中に緑や水辺といった自然環境を感じられる居心地の良いオープンスペースを増やしながら、ICTの活用などによる便利で豊かな生活を送ることが出来るまちづくりを目指しています。

2つ目は、複数用途の混在したまちづくりを示す“ミクストユース”です。昼夜を問わずにまちに人が行き交い、歩いて暮らせる魅力的な生活を目指します。住宅街やオフィス街といった単独用途のまちではなく、“住む”“働く”“商う”“学ぶ”などの用途が混在することにより徒歩圏にて完結した生活が送れるようになり、一日を通して活気のある「住みたいまち」になっていきます。

3つ目は、地域固有の資源を最大限活用したまちづくりを示す“ローカルファースト”です。前橋市が持つ地域固有のあらゆる資源を磨き育て、率先して活用する“前橋らしさ”が感じられるまちづくりを目指しています。前橋市の発展の礎となった絹産業の歴史的な背景や、それに関連するレンガ倉庫、まちなかを流れる広瀬川や駅前から続くけやき並木などの自然や景観的な資源を認識し、積極的に活用して持続的な地域独自の魅力を作り出していくことを目指しています。

この3つの方向性に基づき長期プランに掲げた街路ネットワーク、オープンスペース、土地利用についての改善が進められることで、前橋プライドの礎をより強固にすると同時に便利で健康的なライフスタイルを促進します。緑豊かな屋外空間や建物を含めたまちなか空間が活発に使われて、街の至る所で繰り広げられる様々なアクティビティによって、人々の出会いと交流を生み、クリエイティブな人材が集積・活躍する、多様なライフスタイルを受け入れるまちへと発展してゆくのです。

## ■ まちの将来像

ワークショップの参加者やまちの関係者から聞き取りをした個別エリアのイメージやアイデアを示す一つの形として作成しました。イメージパースで視覚的に示すとともに、その時に見込まれるライフスタイルも示すことで、より具体的に将来のイメージを共有しやすくしています。



駅前けやき並木通りの将来像

## ■ モデルプロジェクト

中心市街地の主要な拠点やエリアをつなぎ、高い効果が期待できるプロジェクトの例を①道路空間の利活用、②水辺空間の利活用、③道路空間の再配分による利活用、④低未利用地の利活用といった視点で示しています。実施にあたっては各拠点やエリアごとに官民の役割分担を踏まえた合意形成が重要であり、先進事例の情報共有や社会実験、実証実験を取り入れながら実現性を高めていくことを想定しています。



広瀬川河畔の改善イメージ

こうした方向性やまちの将来像といった普遍的な理念を官民で共有し、モデルプロジェクトといった取り組み例や改善例を、前橋市アーバンデザインとして示し、民間主体による地域まちづくりを進める足掛かりとして活用されることで、長期的な取り組みの中で柔軟にアレンジされ、エリアマネジメントのもと魅力的なまちづくりが実行されていくことを期待しています。そのため、今後は地域まちづくりの勉強会などを開催し、公共空間の利活用やリノベーションまちづくりの取り組みによるエリアマネジメントの活性化を推進して行きます。





# 屋外広告物タウンミーティングを 開催しました！

群馬県 県土整備部 都市計画課

今回の特集では「屋外広告物タウンミーティング」について紹介します。屋外広告物タウンミーティングはH26年度から群馬県、屋外広告物条例を制定している市町村、群馬県屋外広告美術業協同組合の共催で毎年開催しており、今年で6回目の開催となりました。屋外広告物タウンミーティングは行政、屋外広告業者、地元の商店街関係者が「良い景観」・「良くない景観」を考える機会を提供するために開催しています。今年は国土交通省都市局の企画専門官である広田様を講師としてお招きし、屋外広告物の安全対策について講演いただきました。その後、実際に富岡製糸場周辺のまち歩きを行い、屋外広告物の現状と今後の課題について意見交換を行いました。

平成27年2月に札幌市で看板落下により女性が重傷を負う事故が発生しました。この事故をきっかけに、看板の安全性の確保が課題となっています。全国の看板落下事例などを踏まえながら、屋外広告物を取り巻く現状について、広田様にご講演いただきました。

古い店舗や空き家となってしまっている建物等に長年設置されている看板は老朽化し、落下の危険性が高まります。近年多発している自然災害に備え、定期的な点検・補修が必要となります。群馬県では強風が吹くこともしばしばあるので、安全対策は必ず行う必要があります。

看板はにぎわいを創出する重要な広告媒体ですが、一方で周囲の景観に大きな影響を与え、周囲との調和が求められます。看板から錆び汁が垂れていけば美観を損なってしまいます。加えて看板そのものの形やデザイン、素材に配慮して看板を設置することが重要です。そのような景観との調和という着眼点でまち歩きを行うことで、「普段気にしていないところが気になって新鮮だった。今後の見方が変わりそう」、「よく見ると危ない看板もあって、気をつけないといけないと思った」という意見もいただいています。

まち歩き後のワークショップでは行政、業者、広告主それぞれの観点から、今後の課題が多く出されました。熱い議論が交わされ、興奮冷めやまぬ中、タウンミーティングは閉会を迎え、各自が今後の課題を認識し、意識を高めることができました。



講演の様子



街歩きの様子



ワークショップの様子





## 日本を変えた渋沢栄一翁から学ぶ“地域づくり”への姿勢と意識 ～危機への意識・地域への愛着と、群馬に照らされた新たな連携の道筋～

帝京大学 経済学部 観光経営学科 大下ゼミ

謹賀新年。今回は新紙幣の顔として、また来年の大河ドラマに内定した渋沢栄一翁をテーマに、地域づくりへの姿勢と意識をレポートしたいと思います。発表者は、パートナーネットワーク講座2019に参加した愉快的3人組です。

### ■ 渋沢、危機管理・危機対応の原点をつくる!!

渋沢栄一翁は、今を生きる私たちに多くのものを遺してくれました。そのうちの1つが震災救護事業です。関東大震災の時に実際に行った活動は、収容所の設置、被災者の収容、臨時病院、掲示板の設置、炊き出しと、現在も行われている活動がほぼ網羅されており、危機対応の原点をつくりました。

渋沢翁は命こそ助かりましたが、被災時にいた事務所は半壊し、身内は故郷の深谷へ戻ることを提案しましたが、「私のような老人は、こういう時にこそ、いささかなりと働いてこそ、生きている申し訳が立つものだ」という台詞を残しました。人生100年時代と言われる今、この考え方が魅力ある地域づくりのヒントになるのかもしれませんが。まさにシニア層のお手本、大下先生もまだまだ頑張れる～…!!

### ■ 渋沢、王子・飛鳥山(東京都北区)に愛着をもつ!!

渋沢翁は、飛鳥山をこよなく愛し、1879(明治12)年に別荘を構え、1901(明治34)年からは「嘸依村荘」と呼ばれている終の住処として本邸を構え、実際に終焉の地となりました。渋沢翁の愛した飛鳥山の旧邸の庭園であったところは、現在、「旧渋沢庭園」として公開されています。

第二次世界大戦でほとんどの建物は失われてしまいましたが、渋沢翁の喜寿のお祝いに寄贈され接客用茶室として使用された「晩香廬」と、傘寿と子爵への昇格の祝いとして寄贈され書庫として使用された「青淵文庫」が当時のまま残っています。青淵文庫には渋沢家の家紋である、丸に違い柏に因んで柏の葉をデザインしたステンドグラスやタイルなどが施されており、ともに国指定重要文化財に指定されています。

北区では、渋沢翁をテーマに地域での様々な取組みが展開されるようとしています。今年中には旧渋沢庭園周辺で、東京北区観光協会の数々の渋沢関連の試みが企画されています。

### ■ 絹と渋沢が新しい広域連携の途をひらく!!

私たちは昨年8月に渋沢関連施設を、そして11月に伊勢崎市の境島村を訪問し、渋沢翁と田島弥平との関係を知りました。日本の養蚕業の発展に大きく貢献した田島弥平と渋沢翁とは親戚筋であったのです。

屋根の上にやぐらを設置し、通風を意識し、蚕室内を自然に近い状態で飼う仕組みである「清涼育」を体系的に完成させたのが、田島弥平であることは周知の通りです。世界遺産に登録されている田島弥平旧宅やその周辺の住宅にもやぐらはついており、まち歩きをしても往時の雰囲気を感じる事が出来ました。

日本の近代化を産業として支えた絹による広域連携が富岡製糸場と絹産業遺産群を中心に展開されています。そこに渋沢翁の活躍をテーマに、深谷・境島村から北区・そして都内の渋沢翁の活躍の舞台へと新しい広域連携が展開されることがイメージされます。「絹関連」は、日本の近代化の“プロセス”を示すものであり、「渋沢翁」は近代化に導いた“精神”を表しているのではないのでしょうか。

近代化への“Process&Sprits”～渋沢翁が照らしてくれているこのキーワードは、群馬の新しい地域づくりの一筋の光となるのではないのでしょうか。

担当(須田巧海・小川菜日留・鈴木哲哉)



青淵文庫のステンドグラス。建物の中は、すごく潇洒な印象～こんなところで渋沢翁が好んで食べたディナーを食べたいと思いました。



渋沢翁の生家「中の家」で、案内人さんから詳しく業績をお聞きすることができました。



渋沢栄一記念館でも学芸員さんから多くの教恵をいただきました。渋沢翁は、あまり背は高くなかったようですが、スケールは私たちと比べられない程、大きなものでした。



# 先進都市現地調査

## ～日立市におけるBRTを活かしたまちづくり～

群馬県 国土整備部 都市計画課

令和元年11月18日(月)に、茨城県日立市で群馬県都市計画協会主催の先進都市現地調査を実施しました。

### ■日立市 <sup>おおみか</sup> BRT・大甕駅周辺～久慈浜地区

日立市は関東平野の北東端、茨城県北東部に位置し、温暖な気候で海と山の豊かな自然に恵まれたまちで、日立製作所発祥の地です。明治末期から鉱業、電気機械産業など「ものづくり」を中心に発展してきました。地形及び土地利用上の制約等から、交通の主流は南北方向の移動となっており、JR常磐線、国道6号、常磐自動車道が縦断しています。JR常磐線の5駅を中心に南北に細長く市街地が形成され、高度経済成長期には西側の山すそに住宅地の開発が進みました。しかしながら、近年では少子高齢化や人口流出の影響を受け、日立電鉄線が乗車人員の減少、施設の老朽化に伴い平成17年に廃線となりました。一方で、慢性的な道路交通渋滞により国道6号の旅行速度は茨城県内最低レベルと交通インフラに課題を抱えていました。こうした状況の中、平成20年に市が鉄道跡地を寄付等により取得すると、その後は課題を解決すべく鉄道跡地活用整備基本構想、新交通導入計画が策定され、現在のBRT(Bus Rapid Transit：バス高速輸送システム)の整備・運行に至りました。交通課題の解決に加え、整備区内に地域交流の拠点創出を行なったことも評価され、平成28年に第11回まち交大賞(国土交通大臣賞)受賞しています。

現地視察では、実際に運行しているBRTに乗り、日立市新交通推進課職員にご案内いただきました。BRTの導入にあたっては、行政だけではなく地域住民、沿線にある企業・高校・商業観光事業者等の意見をくみ上げ、今までのバスのイメージを変えるデザインがされており、停留所のシェルターやサインなど随所にその様子が伺えました。また、専用道により定時性・速達性が確保されており、交通インフラの課題をBRTが解消していることが実感できました。



BRTで運行しているバス



停留所の案内表示



鉄道跡地を利用したBRT専用道



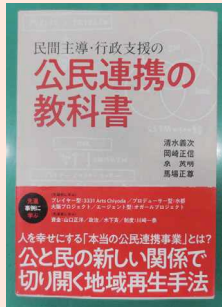
# マーチィ's ROOM

## マーチィに訊け!

まちづくりライブラリーからおすすめの一冊 県都市計画課で貸し出しできます!

「民間主導・行政支援の公民連携の教科書」

著者/清水義次ほか 出版社/日経 BP



今までの成長時代のまちづくりは、「行政主導」または「行政主導+市民参画」で行われてきました。しかし、社会の縮退に合わせて、今までどおりの手法が通じなくなった現在では、都市・地域を経営することで、持続可能性あるまちづくりを行わねばなりません。

本書では、そのような持続可能な都市・地域を経営していくための知識として、「民間が主導し、行政が支援する」地域再生事業の在り方や、その仕組みの中で、稼ぎながら公共的な活動を行う「PPPエージェント(PPP=Public-Private-Partnership、エージェント=代理人)の役割等について学ぶことができます。

ちょっとだけ紹介すると、PPPエージェントには、「1.プレイヤー型」、「2.プロデューサー型」、「3.エージェント型」があり、これからの日本においては、「プレイヤー型」の公民連携が普及していく可能性が高いことが示唆されています。他にも、民間主導・行政支援の3つのモデル(千代田区の廃校を丸ごと借り受け、アート拠点を自主運営している「アーツ千代田 3331」、河川と水辺の空間を使いこなす「水都大阪プロジェクト」、公的事業推進の代理人として民間目線でまちを生む「オガールプロジェクト」)など、民間主導・行政支援で地域をどう変えていくか、というヒントが盛りだくさんです。

これからの縮退時代に最適な地域づくりについて関心がある方は、ぜひ、お手にとって見てください。

今号のおすすめ  
ライブラリー  
こちら!



## マーチィ VOICE

### ●ファシリテーターの紹介●

みなかみ町新治支所 林 正典



林 正典さん



発表後の記念撮影

平成30年度の講座に参加したみなかみ町役場新治支所の林正典です。地域での研修会場が安中市とみなかみ町と知り、それぞれの特徴を比較して勉強したら何かが掴めそうだと閃き参加を申し込みました。研修はグループ討議が多く、いろいろな人の意見、考えを知ることが出来、自分の視野がずいぶん広がったと感じました。また、研修で紹介されていた大下茂先生の『行ってみたい!と思わせる「集客まちづくり」の技術』の本に大変興味を持ち、この本を購入し、自分の視野を一層広げたいと思いました。

研修では目標設定・時間配分などを間違えると、伝えたい事が十分に伝えられない、十分にコミュニケーションがとれない、という事になることも学びました。そして、私の学びたかった「行ってみたいと思わせる」ためのヒントをたくさん得て、大変有意義な研修となりました。

地域を巡る研修では、安中会場で、歴史の町の印象を色濃く残す、武家屋敷・教会・新島譲の生家等の散策で歴史を学び、たくみの里会場では、体験型観光地としてのみなかみ町を学ぶことが出来ました。

令和元年度は、研修の成果を生かすために「花と緑のぐんまづくり2019inみなかみ〜ふるさとキラキラフェスティバル〜」のたくみの里会場の北に位置する須川地区で、初越の風の掲示板を短歌系文学の核として、地元小中学校・高等学校との交流を深め、さらには、広く外の人との交流を図り地域の活性化に協力していきたいと「過疎地域生き生き地域作り支援事業」を11月に申請しました。

## マーチィの掲示板

### 国土交通大学校へ行ってきました!



受講生みんなと記念撮影

こんにちは。群馬県都市計画課都市計画係の小河原です。

9月24日から10月4日までの11日間、国土交通大学校で実施された「土地利用計画研修」を受講しました。

研修は講義形式がメインで、「都市計画とは?」から先進都市の事例まで幅広く学ぶことができました。自分の理解が浅かった分野や都市計画以外の関連分野も総ざらいでき、より理解を深めることができました。

講義と並行して、選んだ都市をモデルに立地適正化計画を作成する班別課題演習にも取り組みました。都市構造可視化ツールを活用した都市構造分析で課題を見つけ、まちの将来像を想像して形にするなかで、実務に役立つヒントがたくさん見つかった気がします。

充実した研修内容もさることながら、やはり国交大の研修といえば全国各地から集まった人たちと交流できることが最大の魅力ではないでしょうか。出身も年齢も様々ですが、都市計画という共通点だけでたくさんの人と仲良くなれて、11日間があっという間に感じました。この研修で吸収したことを、こんどは群馬県のまちづくりにフル活用していけるよう頑張ります!





# まちづくりイベント情報



## 富岡市フォトコンテスト

Instagramで富岡市フォトコンテストを開催中。受賞者には素敵な商品のプレゼントや特典など複数をご用意しております！詳しくはこちら。

<https://tomioka.tokyocameraclub.com/contest2019/>

■募集期間

令和元年10月31日(木)～  
令和2年5月29日(金)

■Instagramのみでの

ご応募となります。

【お問い合わせ先】

(一社)富岡市観光協会

TEL 0274-62-6001



## トマキ探偵ミ〜の名推理〜生糸が導く工女の宝〜

謎を解き、富岡市のどこかに隠された「黄金の繭」を見つけ出すリアル宝探しイベントです。クリアした人に先着でオリジナル商品をプレゼント！詳しくは宝探し専用ページにてご確認ください！

<http://www.takarush.jp/promo/tomioka/>

■令和元年12月7日(土)～  
令和2年3月31日(火)

9:00～17:00

12月29日(日)～

12月31日(火)を除く

■富岡市内

【お問い合わせ先】

(一社)富岡市観光協会

TEL 0274-62-6001



## 沼田だるま市

歩行者天国となった本町通りにだるまなどの縁起物を商う露天が並び、大勢の人で賑わう。午後には須賀神社でだるま供養が行われる。

■1月16日(木)12:00～20:30

(露店:12:00～19:00)

■本町通り

【お問い合わせ先】

沼田商工会議所

TEL 0278-23-1137



## 老神温泉雪ほたる

利根観光会館周辺に作られた小さなまくらにキャンドルがともされ、神秘的な光が雪の中に浮かび出される。

■1月18日(土)～2月15日(土)の土曜日と祝前日  
日没～22:00頃

■老神温泉内

【お問い合わせ先】

老神温泉観光協会

TEL 0278-56-3013



## 妙義山「星空観察会」

冬の夜空の星を専門家の解説を聞きながら天体望遠鏡などで観察します。(事前予約制)

■1月25日(土)・2月22日(土)19:00～20:00

■富岡市立妙義ふるさと美術館

【お問い合わせ先】

(一社)富岡市観光協会

TEL 0274-62-6001



## 老神温泉節分祭

厄除けの豆まきは午後3時から境内で行われる。神事洲炉湯後は豚汁などが振る舞われる。午後8時からは老神多目的広場で花火大会が催される。

■2月3日(月)15:00～

■老神温泉赤城神社

【お問い合わせ先】

老神温泉観光協会

TEL 0278-56-3013



## 第35回桐生市物産まつり

桐生地域の各種物産だけでなく国内親善都市(日立市・鳴門市)や、ますのすし、カキのくんせいオリールオイル漬け等全国の特産品も展示即売します。

■2月15日(土)～2月16日(日)10:00～16:00

■桐生市市民文化会館4階スカイホール他

【お問い合わせ先】

桐生市物産振興協会

事務局

(桐生市観光交流課内)

TEL 0277-46-1111



## 老神温泉びっくりひな飾り

県内外より集められた合計5,000体を超えるひな人形が会場に並び、幅18m×高さ3.8mの特設ひな壇をはじめ、様々な種類のひな飾りが揃う。期間中は様々なイベントも開催される。

■令和2年2月22日(土)～3月29日(日)

9:30～16:30

■利根観光会館ほか

【お問い合わせ先】

老神温泉観光協会

TEL 0278-56-3013



## おしりせ

## ぐんま“まちづくり”ビジョンシンポジウム

まちづくりや交通政策の分野で、全国的にご活躍の日本大学理工学部土木工学科教授の大沢昌玄氏による講演会のほか県内の事例発表等を行います。※参加には事前に申し込みが必要です。

【日時】 令和2年2月5日(水)13:30～16:30

【会場】 群馬県社会福祉総合センター8階

大ホール(前橋市新前橋13-12)

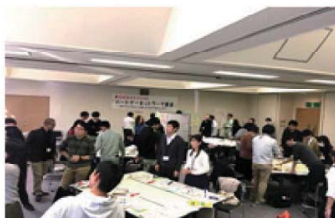
【申込・問合せ先】

群馬県都市計画課 TEL 0277-226-3661



地域の宝を掘り起こす！観光事業支援

## まちづくりラボ・サルベージ株式会社



- ・観光事業 (PR) 支援
- ・イベント企画・運営支援
- ・特産品を活用した商品  
ご当地メニュー開発
- ・観光市場調査

群馬県Webサイト  
関連ページ



弊社公式ページ

『魅力あるまちづくりのパートナーネットワーク』のアシスタントとしてもお世話になっております！

東京都町田市中町1-22-7

TEL. 042-729-8618 Fax. 042-729-8619



## 帝京大学 経済学部 観光経営学科

Faculty of Economics Department of Tourism Management



幅広い教養、豊かな国際感覚、確かな専門知識をあわせ持った人材を育成します

- ・観光産業を経済学、経営学の流れの中で学ぶ。
- ・旅行業務取扱管理者資格取得に向けて、万全のフォロー体制。
- ・実地で旅行業務が学べる「実習授業」が豊富。

入学試験情報	出願期間	選考試験日	合格発表日	※一般入試！期1月30日(木)は、高崎試験場を含む地域試験場がございます。 ※出願方法はインターネット出願です。
※詳細は必ず「入学試験要項2020」をご確認ください。	一般入試1期 2019年12月18日(水)～ 2020年1月21日(火)	【試験自由選択制】 1月30日(木) 2月1日(金)	2月7日(金)	

八王子キャンパス広報グループ  
お問い合わせ先 TEL : 0120-508-739 〒192-0395 東京都八王子市大塚 359 URL: <http://www.teikyo-u.ac.jp>

## まち'sクリの独り言



明けましておめでとうございます！寒い日が続いているクリが、風邪引かないように気をつけられないといけないクリね。コタツで寝ちゃ駄目クリよ。ボクも長くコタツに入っていると熱さではじけちゃうから気をつけなさいクリ。2020年もたくさんの情報を提供するクリ！改めて「おっ!! まっちゃん〜」をよろしく願いますクリ！

有料広告を随時募集しています。詳細につきましては、下記のお問い合わせ先まで、お気軽にご連絡下さい。

【お問い合わせ先】

群馬県県土整備部都市計画課まちづくり室(企画推進係) TEL 027-226-3665 URL <http://www.pref.gunma.jp/06/h5810001.html>